

令和3年度 小林市立東方小学校 自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価（4：期待どおり 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

| 学校経営ビジョン | | 「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的・組織的に参画する学校経営を実施する。 | | | | | | | | | |
|------------------|---------------------|---|--|---|-------|-------|-------|-------|--------------|---|--|
| 項目 | 本年度の重点目標と目標達成のための手段 | 数値目標 | 結果の考察・分析及び改善策等 | 自己評価 | | | | 関係者評価 | 学校関係者評価のコメント | | |
| | | | | 教職員項目 | 教職員総合 | 保護者項目 | 保護者総合 | | | | |
| 知育 | 学力の向上 | 1 ICTの効果的な活用 ・日常的なタブレットの活用、オンライン授業など | 1人1研究授業実施 タブレットPC各学年週5時間以上 | ○ 授業でタブレットPCを週5時間以上活用する目標は、どの学年もほぼ達成できた。また、効果的な活用について、一人1回の研究授業を通して研究を深めている。 ○ 6年生が二原遺跡を見学し、県埋蔵文化財センターと遠隔授業を行って学習の成果を発表し、指導を受けることができた。 | 3.3 | | 3.6 | | 3.0 | ○ 授業でのタブレット活用については、遠隔授業等とてもいい経験ができ、専門的な話も聞けたことで子ども達に刺激になったと思います。ただこれからwithコロナという時代を考えると家庭でも使用できる環境が出来るか...と思いました。 | |
| | | 2 読書指導の推進 ・よんみろ会による読み聞かせ ・家庭読書の推進 ・図書館協力員との連携 | 読書量前年比プラス 家庭での読書（30→50%） | ○ よんみろ会の方々に年10回の読み聞かせをしていただき、読書に親しむ心を育むことができた。新規会員の入会が課題となっている。 ○ 図書館協力員と連携し、図書館の環境設営、蔵書管理、特集コーナーの設置など読書指導を推進し、貸出冊数が昨年度から約1.5倍に伸びている。 ○ 読書記録カードの記入や読書月間の取組、SSC文庫の活用など読書指導を積極的に推進している。 | 2.9 | 3.0 | 3.4 | 3.4 | | ○ 読み聞かせでの改善。仕事の都合で親が朝一に子ども達に本を読むことが大変な所もたくさんあると思います。そこで、朝一の読み聞かせも子ども達が当番で読み合うことが人前になるよい機会にもなり、親の負担がなくなるのでは。 | |
| | | 3 日々の授業の充実 ・個に応じたきめ細かな指導の徹底 ・主体的・対話的で深い学びの充実 | 学びたい度（72.5→75%） | ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、日々の授業を工夫改善して、わかる・できる授業を実践している。全国学力状況調査、みやざき学力状況調査等その成果が十分に表れていないことが、教職員の自己評価がやや低い要因になっていると考える。さらに、学力向上に取り組んでいく必要がある。 | 2.8 | | 3.3 | | | ○ 読書に対する意識が協力いただいている方々のおかげで変わってきているように感じます。いろいろな本を読み知識、人間性を磨いてほしいと思います。 | |
| | | 4 一部教科担任制及び地域人材、素材の活用 ・英語専科 | 地域人材、素材の活用（各学年年3回以上） | ○ 地域の遺跡「二原遺跡」を6年生が見学したり、5年生家庭科の裁縫の授業支援に地域の方2名が参加してくださったりした。また、郷土芸能「みぎや」の指導に復活に携わった方々に踊りを指導していただいた。今後さらに、地域の素材や人材を活用していきたい。 | 2.9 | | 3.3 | | | ○ 本の貸し出し数も大切だが、利用者数も大事だと思う。 | |
| 徳育 | 心の教育の充実 | 1 道徳科の指導の充実 ・心を耕す授業の工夫、体験の場の工夫 ・デジタル教科書の有効活用 | 道徳科の時間の充実と交流活動の実践 | ○ 道徳科を中心に、全教育活動において「道徳性」を養うように指導を行っている。道徳科では、デジタル教科書を有効に活用したり、道徳ノートに学びの足跡を残したりして、道徳的な判断力や心情、実践意欲を育てている。 | 2.8 | | 3.4 | | 3.3 | ○ 人権の学習があった時に、子どもだけでなく、子どもが思ったことに対して、親（保護者）の方の感想や意見を書いて提出する取組は、家庭にとってもよいことだと思います。出来るだけ多くの感想を書いてもらって家庭でも一緒に考える機会が増えるといいと思います。 | |
| | | 2 定期的な教育相談の実施と見届け ・ラポートフォーラムの充実 | いじめ・不登校の未然防止100% | ○ 現在、いじめゼロ、不登校ゼロである。いじめについては毎月のアンケートで把握し教育相談、ラポートフォーラムで行い、早期発見、早期対応ができており、問題には至っていない。いじめ・不登校の未然防止100%を達成することができている。 | 3.3 | | 3.5 | | | ○ 通学路での事故が多い、子どもが登校中、車が子どもの列に...。学校でも今一度狭い道に車が走行してきたら、車が通り過ぎてから歩行するなどの指導を行ってほしい。 | |
| | | 3 異学年交流や支援学校との交流による連帯感の育成 ・集会活動、交流給食、ふれあい交流等 | ふれあい交流100%実施 | ○ 本年度もコロナの影響で1学期は支援学校との交流活動がほとんどできなかったが、Zoomを使うなど工夫してきた。2学期からはふれあい交流ができるようになり、1、2年生のおもちや祭りに支援学校の児童を招待して楽しくふれあう姿が見られ、生命尊重や思いやりの心を育むことにつながっている。 | 2.9 | 3.0 | 3.6 | 3.5 | | ○ 支援学校との交流は、子ども達の大きな財産になると思うので、早く通常の生活に戻れることを願っています。 | |
| | | 4 時と場に応じたけじめある行動と危険予知能力の育成 ・完全無言、右一静歩、避難訓練等 | 完全無言、右一静歩（定着率100%） | ○ 完全無言、右一静歩に全校で取り組み、時と場に応じたけじめある行動ができるように指導を続けてきた。子ども達の意識が向上し、定着しつつあるが、今後も指導を継続していく必要がある。 | 3.0 | | 3.5 | | | ○ 予告なしの避難訓練は真剣度が高まって良いと思う。 | |
| | | 5 自他の生命やきまりを守る指導の徹底 | 安全な登下校施設、設備の安全点検（100%実施） | ○ 通学路点検を実施するとともに、集団下校や地区児童会などを通して安全な登下校ができるように指導してきた。 ○ 本年度は児童に予告しない避難訓練を実施し、危機意識を高め、自ら命を守る態度を育てることができた。 | 3.1 | | 3.5 | | | | |
| 体育 | 体力の向上 | 1 体力の向上 ・体育の授業の充実と運動量の確保 ・三校合同大運動会の充実 ・持久走、なわとび運動の推進 | 体力テストの前年比アップ | ○ 体力テストではA判定の児童が、男子は18%、女子は9%であり、男子のA判定の児童が増加した。しかし、D、E判定の児童が29%となっており、全体的な底上げが課題となっている。 ○ 体力向上、体育の授業の充実に向けて、中学校と連携してサーキットトレーニングを取り入れた。 | 3.1 | | 3.4 | | 3.3 | ○ 体力テスト等の結果については、小学校にあがるまでの家庭の子ども達の姿、幼、保での姿も関係していると思う。市の子育て応援BOOK等でもよびかけをしていただけるとよいのではと思います。 | |
| | | 2 運動を楽しむ態度の育成 ・昼休み時間の外遊びの奨励 | 外遊び定着度100% | ○ ほとんどの児童が、昼休みにサッカーや野球、おにごっこなど外遊びをして運動を楽しんでいる。また、異学年で遊ぶ姿も多く見られ、やさしい思いやりの心の育成にもつながっている。 | 3.2 | 3.0 | 3.4 | 3.5 | | ○ 最近の子どもはスマホばかりで外で遊ぶことが少なくなっている。体育の授業をできるだけ取り入れる。 | |
| | | 3 立腰指導の徹底 ・授業開始・終了 ・時と場に応じた指導 | 話を聞く態度の育成 立腰100% | ○ 授業の開始と終了時に立腰指導を行っているが、個人差が見られ、教職員の評価も低くなっている。今度さらに、時と場に応じた集団行動や話を聞く態度について指導を継続していく必要がある。 | 2.7 | | 3.6 | | | ○ 自分の健康は、自分で守る体力をつけて健康増進に努めてほしいと思います。 | |
| | | 4 健康の保持増進 ・むし歯治療、フッ化物洗口の推進 ・歯磨き指導の徹底 ・感染症予防 | むし歯治療100% フッ化物洗口100% マスク、手洗い、換気定着度100% | ○ 本年度からフッ化物洗口を実施し、むし歯予防に取り組んでいる。現在、むし歯治療率は、56.3%である。 ○ 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、感染対策を徹底してきた。児童のマスク着用は100%で、手洗い、消毒も定着してきた。今後のさらに感染症予防に取り組んでいく。 | 3.1 | | 3.6 | | | ○ 人の話を聞く態度は一生大事なことだと思います。頑張ってください。 ○ コロナ禍で外出制限がかかっている中での、外遊び運動はとても良いと思う。 | |
| 食育 | 食育の推進 | 1 食育週間の実施 ・年3回 | 食育チャレンジ週間 の各家庭での実施100% | ○ 食育週間を年3回設定し、食生活への関心高めたり、家族の絆を深め感謝の気持ちを表したりする取組を行っている。家庭もよく協力していただけており、定着してきている。 | 3.0 | | 3.5 | | 3.3 | ○ 花壇での野菜作りにされていたり、たくさんの方々がされているなど感じました。 ○ 今の子どもは食べ残しが多い。給食を残すことのないように改善を考える。 ○ 食生活の関心の高さや家庭の協力があることは大変よいことだと思います。 ○ 肥満傾向増加は、体を動かすことがおっくうになると思います。今のうちに元気いっぱい運動してほしいと思います。 ○ 生産者への感謝の気持ちを育てる指導は、ずっと続けてほしいです。 | |
| | | 2 地域への愛着につながる食育指導 ・郷土料理・地産地消を取り入れた調理、体験活動 | | ○ 郷土料理・地産地消を取り入れた給食では放送による指導を行っている。 ○ 地域への愛着につながる調理や体験活動があまりできなかったため、来年度は積極的に取り組みたい。 | 2.9 | 3.0 | 3.4 | | | | |
| | | 3 生産者への感謝の気持ちの育成 ・生活科、こすもす科、道徳科等による関連指導 | | ○ 生活科やこすもす科、道徳科と関連させて、生産者への感謝の気持ちを育てる指導を行っている。本年度は、給食センターと連携して、給食感謝集会を実施した。 | 3.1 | | 3.5 | | | | |
| | | 4 肥満対策 ・食に関する研修や授業等の実施 | 朝食、残食ゼロ 外遊び定着100% | ○ 新型コロナウイルスの影響なのか、肥満の児童の割合が増えている。（肥満傾向4月11.8%→10月13.9%） 今後、食に関する研修や授業を行っていく必要がある。 | 2.8 | | 3.4 | | | | |
| その他 | 学信校類づくり | 1 働き方改革による風通しの良い職場環境づくり | 勤務規律の遵守100% | ○ コンプライアンス通信や日々の声かけ、研修等により、教職員のコンプライアンス意識は高く維持されている。風通しの良い職場環境づくりに向けて職員同士のコミュニケーションを深めている。 | 3.0 | | 3.5 | | 3.6 | ○ 保護者としても協議員の一人としても何でも聞きやすく相談しやすい環境が整っていました。 | |
| | | 2 学校の支援体制の確立 ・学校運営委員会、青少年育成市民会議、KSSVC等との連携 | 各委員会100%実施 | ○ 本年度は学校運営委員会、青少年育成市民会議が100%実施できた。学校に対する貴重なご指導、ご助言をいただくことができた。KSSVCやキャリア教育支援センターとの連携を深めることができた。 | 3.1 | 3.0 | 3.5 | | | ○ 宮日新聞の作文等を見るのを皆、楽しみにしていると思います。東方小の子ども達の作文が多く掲載されることを願っています。 | |
| | | 3 魅力ある参観授業と学級懇談会の実施 | 授業参観率85% 学級懇談率80% | ○ 本年度は予定していた学校参観日をすべて実施し、授業参観率、懇談出席率が85%を超えており、保護者の学校に対する協力体制ができています。 | 3.1 | | 3.4 | | | ○ 児童の作品を集めるために、何か心ばかりの品を子ども達にプレゼントすれば多く集まると思います。 | |
| | | 4 作品募集への積極的参加 ・宮日新聞等への投稿 | | ○ 宮日新聞に俳句や詩、作文等を投稿しているが、投稿数があり伸びていないため、教職員の評価が低くなっている。今後、さらに児童の作品等を積極的に投稿していきたい。 | 2.6 | | 3.3 | | | | |
| 次年度の方向性についての校長所見 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的なタブレットの活用やオンライン授業など、ICTを効果的に使いながら主体的・対話的で深い学びを目指した授業を展開できた。次年度は週末のタブレットの持ち帰りなどに取り組み、基礎学力の定着や探究型学習のさらなる充実を図りたい。 ○ 図書担当と図書協力員との連携により貸出冊数が大幅に増えた。次年度はよんみろ会の会員拡大による読み聞かせや教科書の関連図書の発展読書の充実を図ることで、児童の読書習慣や読書・多読等の読書スキルを身に付けさせたい。 ○ 全職員の共通理解による児童への声かけやSSWの協力により、不登校やいじめ、問題行動を早急に解消することができた。次年度は心のこもった挨拶やボランティアについて、家庭や地域と連携しながら地域ぐるみで実践していく必要がある。 ○ 体力テストの分析結果をもとに、中学校と連携したサーキットトレーニング等の新たな取組を実施できた。次年度は全校児童の外遊びの奨励により肥満傾向や運動不足の児童の解消に努めたい。立腰指導についても継続的に指導していく必要がある。 ○ 家庭と連携した年3回の食育週間や給食感謝集会等の取組により、食に関する意識や健康志向を高めることができた。次年度はSDGSに関する授業などの新たな取組を通して、食品ロスや生産者への感謝から備食指導に繋げる指導を進めたい。 ○ 全職員で協力して仕事を効率的に進めることでチーム意識の醸成や働き方改革を推進することができた。次年度も学校HPや新聞等へ積極的に情報発信し、保護者や地域と連携して150周年記念に向けた準備を進め、信頼される学校づくりに繋げていきたい。 | | | | | | | | | |